都道府県が設定している要防除水準（野菜）

（平成28年度調べ）

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
キャベツ（春まき栽培）	コナガ	定植期以降	フェロモントラップによる誘殺数及び5日間（前4日間を含む）のアメダスの平均気温	5日間成虫数30頭以上さらに平均気温15℃以上が2日以上連続	2日後まで		北海道
キャベツ	コナガ	結球前	見取り調査	幼虫数が1株あたり1．3頭以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
キャベツ	コナガ	生育前期（結球前）	幼虫数を見取り調査する	5．0頭／株	即時	結球率100%を目標とする場合	和歌山県
キャベツ	コナガ	生育後期（結球期）	幼虫数を見取り調査する	0．77頭／株	即時	収穫時の秀品率95%を目標とする場合	和歌山県
キャベツ	食葉性害虫	定植期以降	見取り調査（約10株、7日間隔）	新食害痕数1個／株以上	即時		北海道
だいこん	キタネグサレセンチュウ	作付前	1圃場あたり任意の土壌30g×4ヶ所について、センチュウ数（ベールマン法）を顕微鏡により調査	土壌30gあたり1頭以上検出	即時		岡山県
だいこん	キタネグサレセンチュウ	播種前	ベルマン法（土壌25gあたり）	10頭以上	播種前		北海道
だいこん	ネグサレセンチュウ類	播種前	生土50gあたりのネグサレセンチュウ類の頭数を調査	生土50gあたり2～3頭	播種前		青森県
だいこん	バーテシリウム黒点病	播種前	土壌採取	中発生以上のほ場および微小菌核密度10個／g乾土以上のほ場	播種前		北海道
チンゲンサイ	コナガ	随時	見取り調査	1頭／10株以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
かぼちゃ	ワタアブラムシ	7月	中位葉の1葉あたり平均寄生頭数	150頭（大きさ2～3cmのコロニーが3個）以上	即時茎葉散布を開始する		北海道
きゅうり	サツマイモネコブセンチュウ	定植前	ベルマン法（土壌25gあたり）	2期幼虫数2頭以上、根こぶ程度40以上	定植前		北海道
きゅうり	ミナミキイロアザミウマ	随時	見取り調査	4頭／葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
夏秋キュウリ	アブラムシ類	6月上旬～6月下旬	見取り調査、任意	葉当たり10頭以上の寄生葉率が10%	防除開始		福島県
きゅうり	ワタアブラムシ	随時	見取り調査	6頭／葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
すいか	ハダニ	着果期	見取り調査	寄生葉率30%または2頭／小葉以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
すいか	ハダニ	果実肥大期	見取り調査	寄生葉率64%または10頭／小葉以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県

Copyright(C) JPP-NET All Right Reserved

都道府県が設定している要防除水準（野菜）

（平成28年度調べ）

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
すいか	ナミハダニ	果実肥大初期～収穫盛期	上、中、下葉各5葉ずつ雌成虫寄生数を調査する	5．4頭／葉／日	即時	被害許容水準を5%減収とした場合	和歌山県
トマト	サツマイモネコブセンチュウ	定植前	ベルマン法（土壌25gあたり）	2期幼虫数2頭以上、根こぶ程度40以上	定植前		北海道
トマト	オンシツコナジラミ	随時	黄色粘着リボンによる捕獲	1日あたり捕獲数36頭以上	即時	果実のすす病発生開始の目安（要防除密度の目安）	兵庫県
トマト	オンシツコナジラミ	随時	見取り調査	1葉あたり60頭以上	即時	果実のすす病発生率10%の目安（要防除密度の目安）	兵庫県
トマト（施設栽培）	オンシツコナジラミ	定植後	誘殺虫数：黄色粘着板（100mm×257mm）を100株あたり1個の割合（20個／10a）で吊り下げ（トマトの30cm上の位置）、誘殺虫数を調査する。	1～10頭／週（天敵利用施設）	即時（天敵放飼）		広島県
トマト	タバココナジラミ	随時	見取り調査	幼虫数が1葉あたり80頭以上	即時	被害が生じる密度【果実着色異常】（要防除密度の目安）	兵庫県
トマト	マメハモグリバエ	随時	見取り調査	幼虫30頭／株以上	即時	10%減収の目安（要防除密度の目安）	兵庫県
トマト	褐色根腐病	栽培終了後	根の堀取り	根の半分以上が発病している	即時	土壌還元消毒や抵抗性台木を利用する	北海道
ピーマン	ミカンキイロアザミウマ	随時	黄色粘着トラップ（7．5cm×12．5cm）による誘殺	10頭／日	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	随時	見取り調査	1頭／10花	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	全期間	成虫数、見取り（50花）	0．1頭／花	即時	数値は被害許容水準	宮崎県
ピーマン（施設）	ミナミキイロアザミウマ	開花期～収穫期	100花あたりの成虫数を調査する	10．5頭／100花	即時	被害許容水準を5%減収とした場合	和歌山県
ピーマン	ハスモンヨトウ	随時	見取り調査	3齢幼虫4頭／10平方メートル	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
ピーマン	ハスモンヨトウ	随時	フェロモントラップによる誘殺	150頭／旬	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
なす	ハダニ	随時	見取り調査	施設栽培：5頭／葉、露地栽培：2頭／葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
なす	ミナミキイロアザミウマ	随時	見取り調査	1頭／10葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県

Copyright(C) JPP-NET All Right Reserved

都道府県が設定している要防除水準（野菜）

（平成28年度調べ）

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
なす（施設）	ミナミキイロアザミウマ	生育期～収穫期	100葉あたりの成・幼虫数を調査する	86頭／100葉	即時	被害許容水準を5%減収とした場合	和歌山県
なす	モモアカアブラムシ	随時	見取り調査	50頭／葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
なす	ハスモンヨトウ	随時	フェロモントラップによる誘殺	旬あたり150頭以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
さやえんどう	ナモグリバエ	定植後	見取り調査	成虫の食痕15～20個／上位葉3葉の茎が主茎20茎当たり1茎以上	即時		北海道
アスパラガス	ネギアザミウマ	発生期	払い落とし、1圃場あたり数ヶ所	1ヶ所あたり1～5頭／10×20cm板上	即時		香川県
アスパラガス	ネギアザミウマ	発生期	払い落とし、1圃場あたり10ヶ所以上	1ヶ所あたり1頭／10.5×22.5cm板上	即時		長崎県
アスパラガス	斑点病	―	見取り調査	主茎に病斑が散見される程度（発病度12．5以上）	即時		北海道
いちご	ハダニ	随時	見取り調査	寄生小葉率20%または1頭／小葉	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
いちご	アザミウマ類	発生期	見取り調査	成虫の寄生花率10%	即時		香川県
いちご	ミカンキイロアザミウマ	随時	払い落とし	10頭／30花房	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
ごぼう	キタネコブセンチュウ	播種前	ベルマン法（土壌25gあたり）	2～3頭以上	播種前		北海道
ごぼう	キタネグサレセンチュウ	播種前	ベルマン法（土壌25gあたり）	5頭以上	播種前		北海道
たまねぎ	ネギアザミウマ	随時	見取り調査	50頭／株以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
たまねぎ	ネギアザミウマ	4月～5月	見取り調査	50頭／株以上	即時		山口県
たまねぎ	ネギアザミウマ	6月上旬から	見取り調査（10～20株、5日間隔）	食害程度指数25（大多数の株にわずかな食害が認められる）・食害程度指数25に満たない場合は7月10日	1回目：即時・以降10日間隔で7月20日まで	発生対応型防除体系：防除開始期の目安	北海道
たまねぎ	白斑葉枯病	6月上旬から	見取り調査（生育の良い畦を片道100株（畦長12m）往復200株調査）	明瞭な病斑の出現	1回目：初発確認後直ちに（初発の5日以内）・2回目以降：15日間隔・散布終了時期：倒覆期の15日前	発生対応型防除体系：防除開始期の目安	北海道
たまねぎ	べと病	3月	見取り調査	10aあたり越冬罹病株3株以上（越冬罹病株率0．01%以上）	3月下旬～4月上旬	（要防除密度の目安）	兵庫県

Copyright(C) JPP-NET All Right Reserved

都道府県が設定している要防除水準（野菜）

（平成28年度調べ）

作物名	病害虫名	調査時期	調査方法	要防除水準	防除時期	備考	都道府県
たまねぎ	べと病	3月	見取り調査	越年罹病株数が2～3株／10a以上	3月下旬～4月		山口県
にんじん	キタネコブセンチュウ	播種前	ベルマン法（土壌25gあたり）	2～3頭以上	播種前		北海道
にんじん	キタネグサレセンチュウ	播種前	ベルマン法（土壌25gあたり）	5頭以上	播種前		北海道
ホウレンソウ	ホウレンソウケナガコナダニ	は種前～は種後	トラップ調査（コナダニ見張番を5個以上／ハウス）	1頭以上／ハウス	は種前（土壌消毒）または即時		山口県
根深ねぎ	ネギアザミウマ	収穫60日前	見取り調査	被害葉率50％以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県
根深ねぎ	ネギハモグリバエ	収穫60日前	見取り調査	被害葉率50％以上	即時	（要防除密度の目安）	兵庫県

Copyright(C) JPP-NET All Right Reserved